

## 序章

### 策定の背景と目的

福生市は、古多摩川が形成した扇状地（現在の武蔵野台地）の縁にあり、段丘崖線からの豊富な湧水、地下水を利用するとともに、玉川上水から分水を引き、酒造等の地場産業を発展させてきました。昭和40年代からは都市化が急激に進行し、現在、市は大都市近郊の都市として、商店と住宅を中心とする市街地へと変わってきました。

都市化の進展や社会変化のなか、人びとは利便性や物の豊かさを求めたことにより、地域の環境にとどまることなく、地球全体の環境にも大きな負荷を与え、地球温暖化やオゾン層の破壊など大きな課題をも負うことになりました。

このような中で、市は2002（平成14）年3月に「福生市環境基本条例」を制定し、同年4月には、市民44名による福生環境市民会議が発足しました。市民自らが福生市の環境問題を整理し、市民のアイデアによる「福生市環境基本計画市民プランー生き方が変われば景色が変わる」を提案され、市では市民プランを基に2004（平成16）年3月「福生市環境基本計画」を策定しました。

基本計画では、「3章 暮らし方の変革、地球システムへの適合」で、目標として「地球温暖化対策への地域的な寄与をめざし、温室効果ガスの発生抑制に取り組みます。」と掲げ、「地球温暖化対策の枠組みの明確化」を市の具体的な取り組みとしました。

一方、2003（平成15）年3月、市は事業所としての地球温暖化への取り組みとして、「福生市地球温暖化対策実行計画」を策定しました。

本新エネルギービジョンは、上述した市内の環境の変化、市の環境施策を背景として策定するものです。

現在、市内のエネルギーは、ほぼ大規模エネルギー事業者に依存し、その反面、地域内の自然エネルギーや未利用エネルギーを積極的に導入しようとする動きはあまり見受けられない状況です。本ビジョンは、分散化によるエネルギーの安定供給、化石代替エネルギーによる地球温暖化問題の改善、及び地域の新規産業・雇用の創出に寄与することを目的とし策定するものです。

